

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田浦 由紀夫	生徒指導主事	中次 伸彦
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『生命尊重～いじめ撲滅に向けて～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「課題発見・解決力」	2	「自己理解力」	3

取組のねらい『キーワード いじめの未然防止』

自他の生命を尊重する心を育むとともに、いじめのない学校、安心して生活のできる学校を目指して、一人一人ができることを考え、やるべきことを自覚する。また、一人一人がかげがえのない存在であることを理解して、仲間と協力し、助け合うことで、「つながり」を大切にする。

取組の具体的内容『キーワード 心に訴える』

◇「命の大切さについて考える日」の集会

生徒会からの「いじめ撲滅宣言」や『「いのち」って何だろう』の読み聞かせを通して、「命を大切に」とは、どういうことか一人一人が考えた。その後の学活では、それぞれのクラスにおいて、お互いを大切にしていくなめには何をめざすのかを話し合い、クラススローガンや具体的な取組を考えた。



◇「平和」について考える集会

平和学習、生徒会からの平和メッセージの発表、田中祐子さんに被爆体験の講話を通して、広島の中学生として被爆地「ヒロシマ」の歴史から、命の尊さや「生きる」ということを学んだ。



◇「いじめ防止」について考える集会

各学級で話し合ったクラススローガン達成に向けての振り返り発表や、つながりを深めるためのグループワークなどを通して、いじめのない学校をつくるために一人一人が考えた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒の主体的な取組』

発表や講話だけではなく、実際に生徒同士が関わり合い、コミュニケーションをとることで「つながり」を深める活動を入れたいという生徒会の発案により、グループワークを入れた集会を実施した。

具体的には、無言のまま誕生日順に並び替える「バースデイライン」や、すべてをつなげると歌詞になる「伝言ゲーム」が行われた。生徒からも「みんなで協力し、助け合うことが大切だと感じた」「相手に適切に伝わるように普段からも意識したい」などの感想があった。

また、各学級において、クラススローガン達成に向けて取り組み、毎学期末に自己評価を行ったり、クラスで見つけた温かい言葉や行動を紹介する「ハッピータイム」というお昼の放送を流したりするなど、年間を通じて継続的な取り組みを行った。

取組の成果（効果）『キーワード 心に響く』

1学期では、暴力行為3件、いじめ認知7件であったが、2学期以降は暴力行為0件、いじめ認知2件と大きく減少した。また、学校生活・いじめアンケートにおいて、「学校が楽しい」と回答をした生徒が91%、「現在いじめを受けている」と回答した生徒は0%であった。

生徒一人一人の中にも「相手が傷つく行為はいじめである」「相手の気持ちを考えて行動しよう」というような心が根付いてきた。

今後の展開『キーワード つなげる』

自己有用感の低い生徒や自死のほめかしをする生徒が多い現状から、生徒のレジリエンス（心の回復力）をより養っていく必要がある。今年度取り組んだ集会を軸に、体育祭や文化祭、修学旅行や集団宿泊研修などの学校行事をつなげ、「やればできる」という成功体験を積んだり、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えたりする活動を取り入れていきたい。また、学級単位での関わり合いを増やすことで、信頼できる仲間づくりや互いを尊重する心を養っていきたい。



軸としている集会や学校行事の内容を断片的に捉える生徒が多い現状もあるため、学んだことを自分の生活に置き換え、「なにができるのか」「どうあるべきなのか」をしっかりと考えさせていきたい。

他教科との関わり『キーワード 道徳教育』

集会の前に合わせて道徳の時間を設定し、価値項目D(19)生命の尊さ「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」についての教材を扱って、生命尊厳に対する生徒の心情や態度を養った。

また、学期末では、いじめ撲滅（一人ひとりが大切にされる学級・学年・学校の実現）に向けて、各学級でどのように取り組んできたか、できていることや成長したことはなにか、これからの課題はなにかなどを話し合い、次の集会につなげていった。